

2学年総合的な探究の時間 フィールドワーク実施報告 ①

令和5年度の総合探究フィールドワークは、10月18日（水）に実施されました。各班は、実施計画書に基づいて市役所や図書館などの公共施設（10班）、スーパーマーケット、ホームセンター、ホテルなどの商業施設（24班）、校内調理室や実験室（15班）で調査、インタビュー、試作等の活動を行いました。

「防災アンケートと市役所訪問インタビュー」

ロマンシティの入り口付近で、防災に関するアンケートを実施しました。その結果を見ると、防災対策として食料の備蓄や家具の固定などを行っている人が約半数もいることが分かりました。しかし、家の付近の避難場所を知らない人がいることに驚きました。また、地震や津波への不安と警戒心を持つ人が多くいることが分かりました。次に、御坊市役所を訪問させていただき、防災に関するお話を伺いました。独り暮らしの方の防災のためには、非常用持ち出し袋の用意やご近所付き合いをしっかりしておくこと。特に高齢者については、ベッドから玄関まで移動するための体力づくりをして、誰かが見つけてくれる可能性を少しでも高めることが大切だと教えてもらいました。災害が起こっても、一人でも多くの方に助かって欲しいです。

「フェアトレードの認知度調査」

スーパー5店舗と校内において、フェアトレードについての認知度を調査しました。調査結果として、フェアトレードという言葉は知らなかったけれども、説明を聞いたら仕組みや目的は分かっていたという回答があったり、逆にフェアトレードという言葉は聞いたことがあるが、内容をあまり知らないという回答がありました。フェアトレードという言葉も取り組み内容もどちらも理解している人が、ごくわずかでした。この結果を踏まえて、フェアトレードの認知度を高めていく取り組みを検討したいと思います。

「子ども向け非常食作り」

2つの保育所に協力いただいて行ったアンケートの結果を参考にして、子ども向けの非常食作りを行いました。①「ひとくちピザ」、アンケート結果ではピザが好きだという子どもが多かったので、子どもが食べやすいような一口サイズのピザを作りました。具材には、賞味期限の長いうずらの卵や焼き鳥缶を使用しました。②「トマトジュース冷やしうどん」、野菜が嫌いだと回答した子どもが半数以上いたので、野菜嫌いでも食べられそうなトマトジュースを使ったうどんを作ってみました。トマトジュースと一緒に、白だしや鶏ガラスープを使うことで、トマトの風味を生かしつつ子ども向けの食べやすい味付けにしました。③「フルーツ蒸しパン」、好物の1つにフルーツと回答した子どもが多かったので、フルーツ缶を使ったフルーツ蒸しパンを作りました。調理中にパンに湯がかかってしまうというハプニングがありましたが、結構美味しく出来上がりました。最後に、フルーツ蒸しパンで余ったフルーツを使ってフルーツポンチも作って楽しみました。



2学年総合的な探究の時間 フィールドワーク実施報告 ②

「みかんスイーツ作り」

和歌山の名産で、私たちに身近なみかんを使って、みかんジュース、みかん飴、みかんチョコ、みかんケーキを調理しました。みかんジュースは、みかん100%のジュースを作ったのでみかん本来の酸っぱさや甘みを感じられて美味しかった。みかん飴は、飴を作るのが少し難しかったけど美味しく出来上がりました。さまざまなみかんスイーツの試作を通して、あらためて和歌山の特産物であるみかんの魅力を感じることができました。また、おいしく加工することでさらにみかんの魅力を伝えていければと思います。

「JA 紀州訪問インタビュー」

JA 紀州では、QRコードを利用したオンラインショップでの販売を行っているそうです。しかしながら、高齢の購入者には、十分利用してもらえていないようです。今日の農業の課題は、高齢化や気候の変動などで収入が安定しないこと、仕事内容が大変なことなどで、農業に関わる人が増えないそうです。そんな中で、工夫していることは、農産品のブランド化だそうです。例えば、ブランド野菜としてミニトマトの「赤糖房（アカトンボ）」「優糖星（ユウトウセイ）」など、特徴のある名前を付けることで、全国的な認知度が上がりよく売れるそうです。また、ドローンによる農薬散布やAIを導入して、高齢者の農作業の支援を行ったり、少人数でも大規模な農地を管理できるような取組を目指しているそうです。

「黒潮市場視察」

黒潮市場にはたくさんの外国人観光客が来ていた。入り口や店内には魚や観光に関する資料が貼られていて、英語や中国語などで説明しているものも多くあり、漁業と観光業が密接に結びつき和歌山の産業を盛り上げていると思った。販売されているマグロや他の魚の産地を見ると、ほとんどが和歌山県産であった。マグロは天然と養殖の両方が販売されていて、おつまみやお菓子や調味料などに加工されたものも販売されていた。2階には、マグロについて学べる「鮪（マグロ）学び通り」というコーナーがありました。和歌山のマグロ漁の歴史や漁法、マグロの種類、マグロの栄養価などマグロについて楽しく、詳しく学べる工夫がされていた。マグロの解体ショーはとても人気があり、人だかりができていた。職人さんが解体しながらわかりやすく解説してくれました。

「外国人労働者に関するインタビュー」

日本に働きに来て、日本人が優しく丁寧に教えてくれたり、楽しく話せたりできて良かった。一方、困ったこととしては、日本での食事は母国と全然違っていたので慣れるまでに時間がかかったとか、日本語、特に漢字を学ぶのが難しいといった感想が多くありました。漢字については、忘れないようにメモしておいたり、ひたすら毎日書いて覚えるようにしたりしていると話していました。外国語を学ぶに当たって、日本語は他の言語よりも学ぶのが難しいということが分かりました。日本に働きに来た理由については、「日本の会社で働くチャンスを得たい」「日本人の働き方を学びたい、経験したい」と話されていました。また、外国人介護職員の雇用、技能実習生の雇用、特定技能を持つ外国人の雇用についても学ぶことが出来ました。